

地域で学び、地域と共に歩む松本大学の今。

松本大学学報

sokyu 蒼穹

2020.12 Vol.141



1部リーグ昇格を決めた硬式野球部(詳しくはP.13をご覧ください)

特集

菅谷昭学長就任インタビュー

独自の教育手法をより一層強化し、
新たな学びの機会の充実と環境づくりをめざす

..... P.02

●松本大学初の博士課程誕生 P.05

●教員採用試験に18名合格 教育学部一期生 P.06

●「松本大学地域防災科学研究所」の創設へ P.08

●無から有を生み出したオンライン大学祭 P.12 ほか

独自の教育手法をより一層強化し、 新たな学びの機会の充実と環境づくりをめざす

医師としてチェルノブイリ原発事故の医療支援活動などにも携わり、2004年から松本市長を4期務めた菅谷昭(すげのやあきら)学長が、10月1日より就任いたしました。学長就任に際して、市長時代から知る松本大学の印象とともに、今後の展望、学生への思いなどを語っていただきました。

地域貢献を柱とする松本大学との運命的な結びつき



市長在任中、 松本大学の印象はどうでしたか？

まちづくりの推進にあたって健康、福祉、教育など様々な分野で、松本大学の教職員や学生たちに深い理解と協力をいただいたことにあらためて感謝を申しあげたいと思います。歴代の学長をはじめ、教職員、大学関係者の方々にはそれぞれに熱い思いがあり、日々たゆまぬ努力をされています。学生たちも学問に非常に真摯に取り組み、飽くなき挑戦を続けているという印象を持っています。

今や国民用語と言われている「健康寿命」も意外と知られていませんが松本市が発祥で、松本大学との連携からスタートしています。歴史に学び平和について考える「松本ユース平和ネットワーク」も、食品ロスを削減する「残さず食べよう!30・10(さんまる・いちまる)運動」も松本大学の学生たちが参加してくれて軌道に乗ったものです。

市長という立場から松本大学を見てきて、地域貢献を大きな柱とする地域密着型の大学という印象をつねづね持っていました。それは行政側の立場からすると有難かったの

ですが、あまりにも地域の現場に出て一所懸命に取り組んでいるので、大学で勉強をする時間があるのだろうかかと心配したほどです。それが大学で学んだ理論を地域ではこう使うという方法を現場で覚える、理論と実践

がかみ合った独自の教育手法であり、ひいては就職率の良さにもつながっていることが本学にきてよくわかりました。

学長就任の抱負をお聞かせください

私が学長となって驚いたのが、大学独自のアウトキャンパス・スタジアムが全国的に極めて高い評価をいただいていることです。これはたいへんうれしく、また頼もしく思いました。その優れた客観的評価がある現状を今後も維持していくことはもちろんですが、より一層の独自性と特異性を明確にし、国立でもない、私立でもない、「地域立大学」という開学当初からのスタンスを再認識し、地域貢献を柱にさらに先見性のある大学として歩んでいきたいと思えます。

私は大学卒業後、市長就任までの長きにわたり医療に従事してきました。松本市のNGOによるチェルノブイリ原発事故の医療支援活動に参加し、その後ベラルーシ共和国で小児甲状腺がんの外科治療や原発事故で高度に汚染された地域で医療支援活動などにもあた

りました。ベラルーシで活動した5年半は、これからどうするべきかを考える私自身の人生の充電期間だったと思います。帰国する飛行機で今後の生き方を考えたときに、若者が好きなので若年世代の育成や有為な人材の育成をしてみたい、そして環境とまちづくりに携わりたいという考えが頭に浮かんだのです。その時は現実になるとは思いもしませんでした。市長として環境とまちづくりに、今また学長として若者育てに係わる機会にも恵まれました。考えれば考えるほど、松本大学との運命的な結びつきを感じずにはいられません。



ベラルーシ国立甲甲状腺ガンセンター(1996年2月14日)

学長プロフィール

学 歴

昭和37年 3月 長野県上田高等学校卒業
昭和43年 3月 信州大学医学部医学科卒業

職 歴

昭和43年 4月 聖路加国際病院(東京)にて臨床研修
昭和47年 7月 信州大学医学部第2外科学教室入局
昭和48年10月 同 助手
昭和51年 7月 カナダ・トロント大学(内科)留学のため休職
昭和53年 7月 帰国・復職
昭和57年 9月 信州大学医学部講師
平成 5年 5月 同 助教授
平成 7年12月 同 退職
(平成8年1月～平成13年6月
ベラルーシ共和国にて、
チェルノブイリ原発事故医療支援活動に従事)
平成13年12月 長野県衛生部医監
平成14年 4月 同 衛生部長
平成16年 3月 松本市長
令和 2年 3月 市長在任4期16年により任期満了し辞職
令和 2年10月 松本大学学長(現在)

地方創生モデルとして「出生地定着増の促進大学」をめざす 平和を考え行動できる環境づくり

重点的に 取り組みたいことは何ですか？

わが国において早急に解決すべき課題のひとつである人口減少対策の全国モデルに本学をしていきたいと考えています。生まれ育った地域で若者を育成し、就職させ、活躍してもらうことを推進していく「出生地定着増の促進」。

松本大学を「出生地定着増の促進大学」として、地方の人口増加と再生・活性化を促す、「地方創生モデル」としていきたいのです。

文部科学省の調査によると、高校生の子を持つ親の約60%が今住んでいる都道府県内での進学を、61.5%が自宅からの通学を望んでいます。長野県内の国公立大学の県内出身学生は20～30%程度にとどまっていますが、本学では約85%、以前長野県に住んでいたケースなどを含めると90%を超えています。しかも90%以上が卒業後そのまま県内に就職しており、地元での就職ならナンバーワンの大学と言いつけるほど、県内に強い就職実績を誇ります。

就職すれば定住し、家庭を持ち、人口も増えてくる。多くの学生たちが大学で学んだことを地域活動の中で実践し、活性化してく

れることでしょう。開学から20年を目の前に、卒業生たちが地域に根を張りつつあります。その点をさらに強化し、「地域立大学」の役割を果たしながら、人口増、地方再生につなげていきたいと思えます。

教育面での新たな計画や 考えをお聞かせください

平和の問題やそれらに密接に関連する社会的な課題を深く考えてもらう機会を多様なかたちで提供していきたいと考えています。今すでに計画しているのが、大日本帝国陸軍航空隊の特攻基地があった南九州市・知覧への平和研修の旅です。自分と同年代の特攻隊将兵の遺品や遺書などに触れることは、新たな考え方や価値観に目覚めるきっかけにもなるのではないのでしょうか。

より多くの学生たちに平和への学びや行動に取り組む場を拡大し、あわせて軍縮や核廃絶などの問題に対しても多角的な視点で考察してもらいたいと思います。自分自身で考える、あるいは立ち位置を明確にしていくことが大切です。平和学や平和貢献に取り組んでいる国内外の大学との交流と

併せて、たとえば松本市と交流のある鹿児島市や札幌市のような地方都市の大学などとの交流の機会を持つと、地域貢献の様々なかたちを比較検討でき勉強にもなるのではないかと考えています。



甲状腺ガン術後患者(2016年 ベラルーシ訪問にて)

また、私自身、ライフワークとしてベラルーシでの医療支援活動を継続して行っていますので、関心がある学生はぜひ一緒に出掛け、35年経っても今なお収束していない状況だということを知ってもらいたいです。そして福島、日本にも原発の災害が起こっているということであらためて知ってもらい、自国で起こった問題を自分たちで解決するためにはどうしたらいいかを考えてもらうきっかけとなれば幸いです。

大学に愛着を持って 充実したキャンパスライフを

学長はどのような大学生生活を 過ごしていましたか？

私はプロ野球選手になりたかったくらい、大の野球少年でした。大学時代も硬式野球を続け、自らキャプテンのときに医学部の全国大会で優勝したことは忘れられない思い出です。学業との両立は大変でしたが、松本の自然豊かで、文化、歴史にも恵まれた環境下での学生生活は楽しいものでした。学生たちにも魅力あふれる松本でのキャンパスライフを満喫してもらい、何よりも松本大学にもっとも愛着を持ってほしいと思います。そのためには教育面だけではなく、福利厚生面なども含めて新しい環境づくりに積極的に取り組む考えです。

その第一歩として、最寄り駅「北新・松本

大学前駅」駅舎の改築と周辺整備、混雑時の増便もぜひ実現したいものです。今は駅舎が狭く、混雑時には駅の外まで並んでいますし、近隣の空き家なども目につきます。今まで培ってきたネットワークを活用して、さらなる充実を図りたいと思います。

学生へメッセージをお願いします

最近の若者はコミュニケーションを取ることがあまり得意ではないと実感しています。自分自身で考え、コミュニケーションが取れる社会人になってほしいものです。共通教養教育では、リベラル・アーツにもさらに力を



本学での初講義の様子

注ぎ、大学の責務としてコミュニケーション能力に優れた人間を育てたいと思います。そして日々の学生生活を送る中でいつも、本学の一番得意とする地域的な視点、日本という国家的な視点、国際的、何ごとも地球的な規模の視点で捉えてほしいのです。その三つの視点を持って自らの思考を深め、「地方から国を動かす気概」を持って勉学に勤しみ、地域を支え、国を背負い、世界に羽ばたいてくれることを強く願っています。

魅力ある地域づくり、人づくりをめざして 新たに連携協定締結

地域連携課長 赤羽 雄次

長野銀行と連携協定を締結 本学のもつ知見を共有し地域活性化へ

株式会社長野銀行と松本大学及び松商短期大学部は11月9日、地域の産業振興や文化の発展への貢献に向け、地元企業との連携や共同研究、教育分野での協力を目的とした包括連携協定を締結しました。本学が金融機関と連携協定を結ぶのは初めて

となります。菅谷昭学長は、地域貢献に重点を置く双方が連携して、独自性と実効性の高いものを生み出すことができればと述べました。長野銀行が取引先の地元企業等から得たニーズと、本学の持つ知見を組み合わせ、



新商品開発や6次産業化につなげたい考えです。具体的な協議の場は、今後設けられる予定です。

山形村と手を携え地域づくり 地域の発展と人材育成に向けた連携協定を締結



松本大学及び松商短期大学部は山形村と包括連携協定を締結し、12月11日に山形村ミラ・フード館にて調印式を行いました。約20年前、山形村社会福祉協議会の地域コミュニティの取り組みに観光ホスピタリティ学科のゼミ活動等でかかわらせてもらったこときっかけに、バリアフリー観光の共同

研究やインターンシップで学生を受け入れていただいたり地道につながりをつくってきました。

山形村の地域課題やコミュニティづくりなどを材料に、本学のノウハウや学生の感性が村のために活かされ、今のかたちにあったまちづくり、村づくりにつなげていければと考えています。

住吉前学長によるFD・SD研修会 — 最終講義として —

FD・SD委員長・副学長 等々力 賢治

去る9月30日、住吉前学長(以下、前学長)によるFD・SD研修会が行われました。新型コロナウイルス感染症拡大ということもあり若干心配したのですが、ほぼ全員の教職員が出席しました。研修会では、34年の長きにわたって携わられてきた前学長に、本学の歴史、大学運営・経営の考え方や方法、そして学生に対する想いなども含め語っていただきました。また、当日は、学年暦上のFD・SD研修会日であり、同時に退任の日でもあったことから併せて「最終講義」としても位置づけました。

本学と前学長の関わりを軸に整

理された内容は、「本学の歴史がよくわかった」「本学の地域との関わりや理念が理解できた」といった声にあるように、後身、とりわけ若手の教職員にとって絶好の研修になったと判断しています。最後に示された、定員を確実に充足し安定的な財務状況を担保する上での「教育重視」という点は、地方小規模大学としての本学、そして「地域に貢献する人材の育成」を標榜する本学にとって、その重要性を再確認することが必要であることを示唆していたように思います。住吉学長、本当にお疲れ様でした。

前学長の住吉廣行教授に 名誉教授・名誉学長の称号授与



1986(昭和61)年4月、松商学園短期大学商学科に専任講師として着任以来、2020(令和2)年9月までの通算33年6ヶ月に亘り本学の教育研究の振興に寄与された住吉廣行教授に対し、10月

1日付けで松本大学名誉教授の称号が授与されました。

また、その間、副学長、学長の要職に就かれ、松本大学及び松本大学松商短期大学部の大学運営に多大なる功績を残されたことを称え、11月26日付けで名誉学長の称号が授与されました。

松本大学初の博士課程誕生

高度な専門性を持って地域課題を科学的に 解決できる人材の育成をめざして

— 地の人材を知の人材に —

大学院 健康科学研究科長・教授 山田 一哉



健康科学研究科博士課程への 課程変更が認可

本年3月下旬に松本大学大学院健康科学研究科の修士課程から博士課程への課程変更を文部科学省に申請しました(詳細は蒼穹138号)。コロナ禍で大学設置・学校法人審議会での審査が大幅に遅れ、例年よりもほぼ2か月遅れの7月下旬になってようやく第一次審査の結果を受けました。教員審査では12名の専任教員全員が審査を受け、Dマル合教員が4名以上かつD合教員と合わせて7名以上という設置基準を十分に満たすことができました。一方、博士後期課程の設置の目的・社会的ニーズ・学生確保の見直し・教育内容やカリキュラム等に対していくつか指摘事項や助言事項を受けましたが、大学院設置準備委員会での議論を踏まえ対応・修正を行い、8月26日に補正申請書を提出しました。その後、10月22日に大学設置・学校法人審議会からの「令和3年度開設予定の大学等の設置等に係る答申」により、松本大学大学院健康科学研究科博士課程への課程変更の認可について「可」とされ、10月23日に文部科学大臣から正式に認可を受けました。これで、松本大学としては初めての大学院設置から10年となる記念すべき2021年4月に、現行の修士課程は博士前期課程となり、新たに博士後期課程が設置され、装いも新たに松本大学大学院健康科学研究科博士課程がスタートすることになります。



長野県内では、同時期に長野医療保健大学大学院保健学研究科修士課程・長野清泉女子大学大学院看護学研究科修士課程・長

野大学大学院総合福祉学研究科博士課程が設置されることとなり、高等研究教育機関を取り巻く環境が大きく変化します。この中で、本大学院では、予防医学でもある「健康科学」という人々の健康の維持・増進にかかわる分野の研究・教育を中心に特色のある大学院として引き続き、発展に努めたいと思っています。

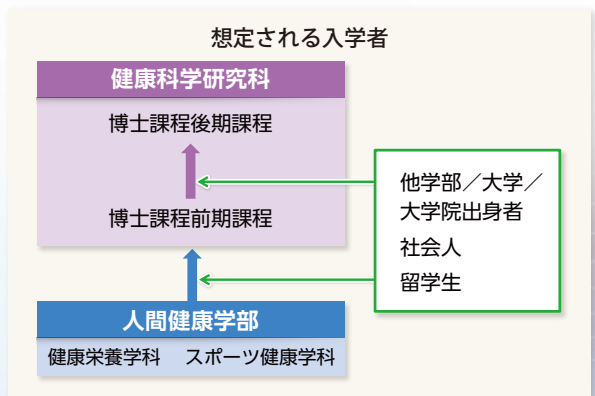
さまざまな研究分野で 活躍する教員が指導

博士後期課程では、「健康科学」分野の最先端で行われている研究についての知識を深めるために、全教員によるオムニバス形式で行われる「健康科学特講」と大学院在学中に研究倫理教育や研究費の獲得に関するスキルを学び、将来の進路選択の支援を含む「研究教育キャリア特講」を必修科目としています。また、「健康科学演習」では各自の専門分野の最先端の学問を学びます。さらに、「博士特別研究」においては、専門分野で最先端の研究を行い、博士論文を作成します。以上の単位を取得した上で、最終審査である博士論文審査発表会で発表を行い、博士論文審査基準のもとに、「健康科学」に関する確かな総合科学的思考力と創造力、「健康科学」の現場で生じる未知、あるいは未解決の課題を発掘・解決できる知識と能力、「健康科学」分野の最先端の研究成果を自ら学び、かつ自ら研究を行い、自らの力で発信・実践できる力のいずれかに合致する知識と能力を十分に培ったと判断される院生に対し、博士(健康科学)の学位が授与されます。

想定される入学者と 育成する人物像

入学者は博士課程前期からの進学者と他大学院で修士の学位を取得した(あるいは研究科委員会がそれと同等と認めた)院生や社会人を想定しています(図)。本大学院は、社会人にとって学びやすい制度を充実させていることもあり、社会人院生の比率が全国平均と比べて約3倍超と非常に高い点が特長です。また、在籍者が保有している資格も管理栄養士、健康運動指導士以外にも看護師・保健師、臨床検査技師、作業療法士、理学療法士などのメディカルや高等学校教諭など多様です。全体の95.8%が県内在住者であり、まさに、「(地)の人材を(知)の人材」にしている大学院です。博士後期課程においても、この特長を引き継ぎ、長野県にいらして、日本全国はもちろん世界に向けて発信できる研究を行える、より高度な専門性を有する人材を育成したいと考えています。

また、今回の課程変更により、博士前期課程で取得できる資格として、現行の中学校・高校保健体育、栄養教諭の専修免許状に加えて、養護教諭の専修免許状の教職課程も申請中です。



【2021年度 入試日程】 ■松本大学大学院 / 健康科学研究科

選抜区分	募集人数	会場等	出願期間	試験日	合格発表日	手続締切日
健康科学研究科 博士前期課程選抜Ⅱ期(一般学生・学内推薦学生・社会人)	6	松本大学	1/4(月)~1/29(金)	2/7(日)	2/16(火)	2/24(水)
健康科学研究科 博士後期課程選抜(一般学生・学内推薦学生・社会人)	2	松本大学	1/4(月)~1/29(金)	2/7(日)	2/16(火)	2/24(水)

詳しくは、WEBの学生募集要項を必ずご確認ください。



速報

教育学部 一期生 教員採用試験に延べ18名合格

教育学部 教職センター長・准教授 征矢野 達彦

2017年に開設した教育学部では、一期生が今年度初めて公立学校教員採用試験を受験し、延べ18名(実人数12名)が合格しました。地域別内訳は、長野県6名、新潟県3名、静岡県3名、その他の都道府県及び政令指定都市6名で、校種別内訳は、小学校17名、特別支援学校1名でした。

先輩のいない一期生ですが、勉強の仕方や情報収集の仕方、面接や模擬授業の練習など、手探りでよく頑張ったと思います。特に、今年はコロナ禍の中で大学への登校もままならず、教職員からの直接指導も十分には受けることができない状況で

した。不安や緊張の中での受験でしたが、教職センターの支援もあり、大きな成果を上げることができました。全教員採用試験受験者の一次合格者は35名で合格率は63%、一次合格者の二次合格者は18名で合格率は56%、全体の教員採用試験合格率は34%でした。(参考:長野県小学校の採用試験合格率、一次合格率68%、二次合格率48%、全体合格率33%)

涙をのんだ学生のほとんどは、講師として働きながら、来年の教員採用試験合格をめざして頑張ろうと、決意を新たにしています。

総合経営学部・人間健康学部、 教員採用試験合格を目指した努力の成果!!

全学教職センター長・教授 山崎 保寿

総合経営学部・人間健康学部の公立学校教員採用試験合格者は、次の通りでした。現役生2名(長野県・義務養護、岐阜県・小学校)、卒業生7名(長野県・小学校、長野県・高校商業、長野県・高校養護(2名)、山梨県・小学校、山梨県・中学校、静岡県・小学校)。総合すると、養護教諭の3名をはじめ、高校商業、山梨県中学校保健の合格が特筆すべき成果といえます。この他、現役生の2名が上越教育大学大学院へ進学します。

総経・人間教職センターでは、現役生はもちろん、卒業後も臨時採用講師等を経て2年以内の採用を目指し、教員採用試験合格への支援を行っています。

合格者による報告会を実施 真剣に聞き入る3年生



3年生に向けてアドバイス

「2020教員採用試験合格者による報告会」は、試験を振り返り発表することによって、来年度受験予定の3年生が試験の傾向を知り、見通しをもって学修を始めるきっかけとするために実施しました。「教師になりたいという強い意志で」「苦手から逃げない」「覚えてしまうほど繰り返し問題に取り組んだ」などの先輩の具体的な話から、勝ち取った合格は並々ならぬ熱意と努力の賜物であったことが伝わり、真剣に聞き入る3年生の姿が見られました。次年度の教員採用試験に向けて3年生もすでに準備を始めています。(教育学部教職センター 専門員 高山 雪)



面接対策講座

2020年度 卒業予定者 || 好調な就職内定状況

今年度の就職活動も終盤となり、12月9日現在での本学における就職内定率は、学部90.1%、短大80.4%となっております。文部科学省と厚生労働省が発表した10月1日現在の大学等卒業予定者の就職内定状況調査では、大学(学部)69.8%(前年同期比7.0ポイント低下)、短期大学27.1%(同13.5ポイント低下)とリーマン・ショック後に次ぐ下落幅となりました。このように新型コロナウイルスが学

生たちの就職活動に深刻な影響を及ぼしているなか、本学では高い内定状況を得ております。このことはコロナに負けず、前向きに活動をする学生たちの頑張り、地域の企業が採用意欲を失わず本学学生を採用いただいているためと痛感しています。卒業までにすべての就職希望者が納得する内定に結びつくよう、更なるマッチングの支援に取り組んでいきます。(キャリアセンター 係長 上條 直哉)

内定率100%達成

教育学部一期生の 教員希望者以外の主な進路

“教育以外の新しい分野にチャレンジしたい”と意識が変わった場合でも、教員以外の仕事を目指すこともできます。教育学部一期生の教員希望者以外の主な進路をご紹介します。

▼ 内定先企業(順不同)

(株)八十二銀行、日本郵便(株)、東日本旅客鉄道(株)、北海道旅客鉄道(株)、ホクト(株)、(株)テレビ松本ケーブルビジョン、(株)池の平ホテル&リゾート、塩尻市役所 他

▼ 大学院進学

上越教育大学大学院(3名)

公務員採用試験 結果速報

(2020年12月1日現在)

松本市役所2名、塩尻市役所2名、諏訪市役所1名、朝日村役場1名、山形村役場1名、阿南町役場1名、原村役場(行政事務)2名、原村役場(管理栄養士)1名、木曾町役場(栄養士)1名、長野県警察4名、松本広域連合1名、自衛隊4名

※本学から初めて警察行政職での合格者(1名)が出ました。

学校現場1年目の卒業生を応援 ～フォローあっぷ学校訪問～

総経・人間教職センター 専門員 石井 良治

本学を卒業し、4月から学校現場で仕事を始めた“卒業生”を応援する企画が「フォローあっぷ学校訪問」です。年度当初の慣れない環境や仕事に向かう心のケアを目的として、毎年5月から勤務校を訪問し、卒業生と直接面談をしています。

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で学校訪問を控えていましたが、6月に入って各校の授業再開を機に訪問を開始しました。長野県内の小学校、中学校、高校、特別支援学校等19校を訪問し、職場での仕事環境や人間関係、日々の奮闘ぶりなどを語る“先生”の話を傾けました。

授業準備や成績処理はもちろん、部活動の指導をはじめとする校務分掌の仕事、会議や研修に追われる毎日ではあるものの、表情や話しぶりから、職場に位置付いている様子が伝わってきて、非常に頼もしくなったように感じました。

A中学校の校長先生からは、「経験不足はあるが、前向きな姿勢で仕事をしている。本人自身はとても苦労していると思うが、周りの先生方から吸収する力が素晴らしい。今は勉強する時期でしょう。このような訪問は、本人にとって励みになると思う」とお話しいただき、T小学校の教頭先生は、「卒業生に対して学校訪問をしている大学はないと思う。松本大学



安曇野市立明科中学校勤務 大池 凜さん
(スポーツ健康学科 2019年3月卒業)

はなかなか丁寧ですね」と見送りの際、おっしゃっていました。

“1年目の先生”に期待を寄せながら見守っていただいていることに感謝するとともに、今後も支援を続けてまいります。

面談内容を一部紹介

【中学校勤務A君】

4月は何をやってもよいかかわらないうちに終わってしまった。困った時はとにかく周りの先生方に聞くようにして、仕事の内容や流れを覚えた。お手本にしている先生がいる。

【養護学校勤務B君】

保健体育の免許を持っているが、特別支援学校に赴任して特別支援教育の奥深さややりがいを実感し、自分のキャリアを幅広く考え始めた。

【中学校勤務Cさん】

中学校に赴任したが、小中併設の小規模校なので小学校の授業も応援に入っており、とてもいい勉強になっている。

短大の学びを活かして4年制大学へ編入

松商短期大学部教務主任・経営情報学科長・教授 矢野口 聡

松商短期大学部生の進路選択の一つとして、4年制大学への編入があります。松商短大では検定試験合格や資格取得を目指した演習系科目が多いのですが、実践的スキルを高めていく中で、さらに知識や理論を学んで深めたいという学生は、経営系の4年制大学3年次への編入を希望することができます。

希望者の多くは私立の経済経営系大学への編入を目指していますが、中でも本学総合経営学部への編入希望者が毎年一定数おります。総合経営学部の編入試験は毎年9月と12月の2回実施されていますが、松商短大生が受験する際は、出願時期の一カ月前までに事前相談やエ

ントリーシートの提出があるため、早い時期から準備が必要となります。また、編入試験に合格するためには、“編入後2年間で無理なく卒業できるか”を評価してもらえるかどうかのカギとなります。在学中に専門科目を好成绩に維持することはもちろんですが、編入先の単位読替が可能となる科目の履修や他学部履修制度を利用した編入先科目履修を積極的に行っていくことが大切です。そして、小論文対策としてレポートの質を上げるなど日頃から文章力の向上に努めることも重要です。4年制大学ではレポート作成が多くなります。書く力は編入後の学習を助け、社会に出た後も必要となる力です。

次のステップを目指して進む学生たちの希望に沿った進路選択ができるようにサポートしていきます。

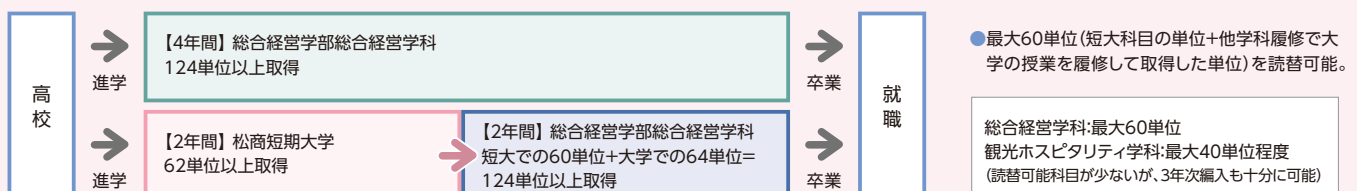
【主な編入実績大学】

- 松本大学(総合経営学部)
- 東京経済大学
- 公立諏訪東京理科大学
- 岐阜女子大学
- 信州大学
- 國學院大学
- 大阪産業大学
- 富山大学
- 愛知工業大学
- 金城学院大学
- 日本大学(通信教育課程)

【過去5年間の松本大学総合経営学部への編入実績】

年度	受験者(人)	合格者数(人)
2015～2019	15	11

松商短期大学部からの編入の流れ 例：「総合経営学部総合経営学科」への編入イメージ



「松本大学地域防災科学研究所」の創設へ

～地域の支え合いを基盤とした地域防災の研究を本格化～

2011年3月東日本大震災の支援活動を転機に、本学では防災・減災問題に取り組んできました。実践を通して培った知見をさらに深化させ、地域づくりに活かすべく、次なるステージに向けたこれからの取り組みについてご紹介します。

地域防災対策委員長・観光ホスピタリティ学科 教授
尻無浜 博幸



通算10回目を迎えた防災士養成研修講座



10月10日、本学で開催した講座

これまで本学における地域防災の取り組みについては何度となく触れてきたところでありますが、2014年から始まった松本大学防災士養成研修講座は、2020年10月10日・11日の開講によって通算10回目を迎え、資格取得者は累計554名になりました。

防災士養成事業を実施するためには、日本防災士機構の認証委員会の認証を受ける必要がありますが、10回の実績によ

て本学は上位の防災士養成校に指定され、長野県内において唯一の養成校となりました。ちなみに2017年からは並行して、総合経営学部の正課授業に位置付けて本学生の防災士養成も展開してきました。さらに今年度からは、観光ホスピタリティ学科の専門教育の1つに地域防災コースを置き、学科の学びの中でも防災士養成を核とした地域防災の研究を本格化しています。

本学の強調する地域防災とは

災害防止は、災害発生のしくみを考えるときに地震や津波発生、土砂災害などいつ起こるかかわからない自然のメカニズムを解明して予見する取り組みになります。その後、逃げる、避難する、復旧復興・生活再建へと続いていきます。「自分の命は自分で守る」に徹するようになっていますが、地域の住民同士の助け合いはこのような緊急時には欠かせません。本学が強調している「地域防災」は、災害発生後の地域の

支え合いを基盤とした災害防止のあり方を中心としているところに特徴があります。具体的には、的確な避難行動をどうするのか。避難所運営はどうするのか。高齢社会を生きる中、要支援者救助はどうするのか。災害ボランティアの適正な運用とは何かなど、自分たちでやっていかなくてはいけないことは山積みです。これらに重点をおいて取り組むことから“地域防災”を強調しているわけです。



2018年7月 新村地区、新村保育園との防災訓練

これまでの学びを今後活かす

COC事業を起點に地域連携課を結実し、一部ではありますが教職員・学生共同でこの分野の学びや活動を積み上げてきています。被災地に学ぶために岡山県真備地方や札幌市を訪問して、都道府県レベルのその後の対策を学びました。また愛媛大学、徳島大学からは、防災人材を核とした大学間連携、行政と教育機関連携等を学びました。

また、地域づくり考房『ゆめ』を中心に栄村の災害支援活動に学生、教職員を派遣する頃から、自然災害が頻繁に起こるようになりました。このことは明らかに地球温暖化との関係は否めないでしょう。本学において大きな転機になったのは、2011年3月の東日本大震災での支援活動でした。多くの学生、教職員がかかわり継続した支援活動は7年にも及びました。今年10

月、学内において「松本大学地域防災科学研究所」の設置を機関決定しました。来年4月から本格的に動き出すために研究所のあり方を検討中です。この研究所は、これまで10年の経緯を踏まえていることが貴重な財産です。防災においても地域社会に貢献する大学に今後なるようにしたいと思います。

基礎教育センター

2020年度前期朝の学習講座 オンラインで受講者急増 11月より対面でも実施

基礎教育センター長・総合経営学科長 教授 清水 聡子

基礎教育センターは「いつでも 誰でも 気軽に立ち寄り 共に学び 教えあう」を標語として運営しています。新型コロナウイルス感染症の影響により、松本大学の2020年度前期授業はMicrosoft Teamsを利用した遠隔授業で5月7日より開始し、基礎教育センター朝の学習講座(9時~9時30分)も6月1日より遠隔講座としてスタートしました。

前期は大学内への入構が制限される中、学生の学習への関心は非常に高まりました。オンライン授業と朝の学習講座は親和性が高く、朝の学習講座開設以来、最も多い受講者数を記録しました。2020年度は前期45回、朝の学習講座が開催され、そのうち受講票を提出した学生数は2,069人でした。2019年度は前期70回、朝の学習講座が開催され、参加者数は676人でしたので、オンラインではありましたが、2020年度前期は2019年度の3倍の学生が参加したことになります。

通常の授業科目ではないので、受講希望

の学生を一人一人Teamsに招待し続けてくれた基礎教育センター事務局や、学生や学部学科からの要望を取り入れ、問題を作成し、講座を組み立ててくれた基礎教育センター専門員の先生の尽力もあり、多くの学生が受講することができました。

朝の学習講座は11月より対面とオンライン併用型で運営しています。月曜日は塩野敏彦先生の基礎英語、火曜日は篠島良一先生の基礎数学、水曜日は同じく篠島先生のSPI数学、木曜日は福嶋紀子先生の社会科入門、金曜日は久米啓子先生の「めざせ言葉の

達人」講座です。30分という短い時間ではありますが、継続は力なり。学生の皆さんの夢の実現に向けて基礎教育センターは学力向上のサポートをしていきます。



就職試験に向けての個別指導

基礎教育センター

学生一人一人の多様な目的に応じて、基礎的な学力をバックアップ

日々の授業や演習で求められる基礎学力の向上や就職試験のための実力養成のほか、各種検定試験合格に向けた基礎学力作りを支援しています。気軽に立ち寄れるオープンスペースがあり、学習会、グループ学習、個別指導、自習など活用方法もさまざま。専門員が常駐しているので、授業の合間や放課後など各自の予定で利用できます。

研究室紹介

総合経営学科 教授
兼村 智也

「現場主義」に基づいた 研究や教育を実践

私の専門は「中小企業論」です。そのなかでも中小企業の「国際経営」を中心とした研究を行っています。今や大企業のみならず、中小企業も海外へという時代ですが、その際に生じる海外事業から受ける国内事業への影響や現地への経営資源の移転などの課題が少なくありません。一方、海外には国内にはないビジネスチャンスと出会う可能性があります。現在はこうしたプラスの面に注視し、「海外での新事業展開の可能性」について科研費の採択を受けて研究しています。

その際、データが必要になりますが、私の場合は国内外の企業の現場に出向き、経営者の方々から直接ヒアリングを行う「現場主義」を徹底しています。これが大変刺激的で、表面上の数字には表れない根っこ部分、例えば経営者の理念や経歴などまで知ることができます。また次の研究テーマにつながることもあります。近年、取り組みはじめた中小企業の人材獲得・育成はそこで得たヒントから始まったものです。こうした「現場主義」の実践には手間がかかりますが、

幸い長野県にはアジアに進出する中小企業が大変多く、また経営者の方々のご協力もあって、その点では大いに助かっています。

ここで把握した実態や知見は研究論文に活用するだけでなく、社会にも還元するように努めています。現在、労働組合の全国組織である「連合」のシンクタンク「連合総研」での「働く場としての中小企業の魅力」や日本工作機械工業会の「2030年産業ビジョン」の委員を務めています。こうした全国規模の調査研究委員会等で地域の中小企業の実状を伝えており、それが私に求められる役割と思っています。もちろん教育への還元も重要で「活きた教材」として授業やゼミ活動で大いに活用させてもらっています。



タイの訪問先企業で現地スタッフと記念撮影

【経歴】早稲田大学大学院アジア太平洋研究科博士後期課程修了。民間シンクタンク、華東師範大学外国語学院を経て現職、博士(学術)【専門分野】中小企業論、地域産業論など【研究課題】中小企業の国際経営、人材育成など

地域連携活動

最近の取り組みから

「オープンカレッジin飛騨」で今年も講演 ～大学が飛騨にやってきた～

大学のない飛騨地域で気軽に大学の講義が受けられることをコンセプトとした「オープンカレッジin飛騨2020」が、9月19日に飛騨・世界生活文化センターで開催されました。本学は、高山市と連携協定を結んでおり、同イベントには今年で参加2年目となります。本学から2名が講師としてお招きいただき、講演を行いました。当日の様子についてご紹介します。

「エイジング・アンチエイジングと栄養」



エイジング(加齢)による変化は避けがたいものではありませんが、科学の進歩によりアンチエイジング(抗加齢)の学術的な進展もみられています。私の担当した講義では、「エイジング・アンチエイジングと栄養」と題した内容で、2つの事例をもとに加齢と生命の基本となる栄養との関係について講義を行ってきました。1つ目の事例は、新型コロナウイルス感染症の世界的流行において考える免疫と栄養について解説しました。ここでは、本学における感染症対策本部の対応や前期の対面実習の様子も紹介してきました。2つ目の事例は、健康寿命延伸と日本食について解説しました。上の写真のスライドに示したように、多種にわたる生物においてカロリー制限により寿命が延長することが知られています。ある程度西欧化した伝統的の日本食が、長寿国日本に貢献していることは明らかですが、代謝、がん、老化との関係などさらなる科学的分析を必要とします。最後に、主催者のご配慮によるコロナウイルス感染対策を講じた教室で、受講の皆さんには長時間熱心に聴いていただけたことに感謝申し上げます。(健康科学研究科・健康栄養学科 教授 青木 雄次)

「効果的な運動と実践方法」

今年度は新型コロナウイルスの影響もあり、前年より定員を少なく定め開催されましたが、それでも定員に達するほど多くの方にご参加いただきました。

講義では、健康志向が高まる世の中でなぜ運動が必要なのか、どのくらい、どのような運動を行えば良いのかなどについて話をしました。また、適度な運動習慣を身につけることで免疫力が高められるという説明に対して、受講者は熱心に耳を傾けている様子でした。その後、歩き方や筋力トレーニングなどの実技指導を行い、最後に講義で学んだ内容をもとに、実際に体を動かして体験していただきました。受講者からは、「姿勢に気をつけて歩こうと思った」「とても効果的と感じたので、今後も継続しようと思う」などの感想をいただきました。松本大学が推進している健康づくりは、長野県内のみならず幅広く高山市の地域の方々にも喜んでいただけると実感した貴重な時間となりました。(地域健康支援ステーション 健康運動指導士 近藤 壮太)



学生が新村のえごまラベルをデザイン

昨年6月のこと。長いお付き合いとなるJA新村青年部から農事組合が紹介され、農産品ラベルのデザインの依頼がありました。背景には、平地農業地域の新村にも小さな農地が点在しており、耕作放棄を防ぐために皆で「えごま」を栽培して、優良農地を守りたいので協力してほしいとのことでした。

えごまはシソ科の作物で、油に α -リノレン酸を含む健康食品として人



気です。譲り受けた苗を学生らが本学圃場で定植し、総務課農園管理の職員の手厚い応援で収穫・試食して価値を確認しました。デッサンが特技の学生、五味直斗君(観光ホスピタリティ学科4年)は実の袋と油瓶のラベルデザインを2年に渡り手掛けました。初年度は自然を基調にした優しいデザインでしたが、依頼者の要望に十分応えられず、やり取りの課題が残りました。今年は収穫の手伝いや対話を通して丁寧にニーズを拾い、コンセプトを見直し、先方が満足する華やかなものに仕上げました。年末から順に市内のJAファーマーズマーケット(直売所)に並びます。さらに、食材ロス対策と農福連携で「えごまクッキー」もでき併せて販売されます。(観光ホスピタリティ学科 准教授 中澤 朋代)

高大連携推進事業

高校生がお城下町地域でフィールドワーク 街歩きから地域の魅力や課題を発見

松本大学は、飯田市及び飯田OIDE長姫高校と連携し若者の地元定着をめざす「地域人教育」の一環として、毎年1年生を対象に松本市

街地においてフィールドワークを実施しています。コロナ禍に見舞われた本年度でしたが、生徒や高校職員から強い要望があり、10月21日に1年生2クラス約80名の生徒が参加して実施しました。感染防止の観点から、店内での食事や通行人へのインタビューを避け、インスタ映えする場所やお土産を探すなどの形で街の魅力をみつけるとい

う課題に沿って、上土・緑町・繩手などお城下町エリアを歩きました。

当日は、晴天にも恵まれ生徒たちは、街歩きを楽しむとともに、松本の街づくりの現状や課題などについて自分たちの五感を使って学んでいました。また本年度は事前学習に力を入れ、高校の授業に地域や観光を専門とする本学の4名の教員が出向き、松本のお城下町に関する説明や「地域の資源や課題とは何か」「資源や課題を



どう見つけるか」などの基本的な知識について学ぶ機会を設けました。さらに事後学習として高校にて13班に分かれてグループワークを行い、フィールドワークのまとめとして松本の資源や課題を踏まえた街づくりの提言を行いました。その成果は、11月21日・22日に開催された四柱神社のえびす講において、ポスター発表として展示されるとともに、今後、地区公民館にて展示を行う予定です。

コロナ禍を理由に生徒の学びの機会が失われる中で、感染防止に万全を期しながらフィールドワークを実施できたのは、これまで本学と飯田OIDE長姫高校が地域の中で育てるといった基本的な理念を共有したことに加え、特に地域との長年の信頼関係があったからこそだと思います。受け入れていただいた地元関係者の方々には厚く御礼申し上げます。（観光ホスピタリティ学科 学科長・教授 白戸 洋）

地域健康支援ステーション

健康増進と観光を一体化させたモニターツアー 大学ならではの体験に参加者から満足の声

11月10日、本学と株式会社池の平ホテル&リゾートとの連携協定に基づき企画した、健康増進と観光を一体化させたヘルスツーリズムのモニターツアーを実施し、モニター参加者や旅行産業関係企業の方々など20名ほどにお越しいただきました。

午前中は、体力測定を行いました。普段あまり体験できないような専門機器を用いた測定に参加者は、楽しみながらも精一杯頑張っている様子でした。体力測定終了後、昼食は学食にて健康栄養学科学生の考案したレシピをアレンジした特別メニューを食べていただきました。信州白みそのお味噌汁や秋鮭など、旬の食材を使いつつ、栄養バランスも考えられた料理に参加者からもご好評をいただきました。

午後は、本学教員による講義や体力測定の結果返却、講義



を基にした運動実技など盛りだくさんの内容でしたが、後日行ったアンケート結果からは、「先生の講義がとてもためになった」、「教えてもらったことを活かし、できるだけ身体を動かしていきたいと思う」などの声を多数いただきました。大学ならではの体験に、モニターや旅行会社の方々からの満足度は高い評価を得られています。



今回、好評を得ることのできたこの新しいヘルスツーリズムは、今後より良いものへと改良し、さらに推進していきます。早ければ、来年春季から一般の申込み受け付けを開始していく予定です。

（地域健康支援ステーション 健康運動指導士 近藤 壮太）

地域づくり考房「ゆめ」

「食・いのち・平和」の視点から地域を深く知る ～ONE TEAM プロジェクト～

今年度からの新事業「ONE TEAMプロジェクト」では、地域について多様な視点で学ぶことを目指しています。第4回は「食といのち」、第5回は「いのちと平和」をテーマとして活動を行いました。

第4回は、10月10日に南安曇農業高校を会場に同校の小池晃先生よりご指導いただきながら、午前は学生が持ち寄った県内各地の水のテイastingを通じて水と食の関係について学び、午後はドイツとの食肉加工の違いを比較しながらソーセージを試食しました。また施設見学では、「ヤギ」の育て方についても知ることができました。日常生活で消費される水や食べ物でも、地域や国によってその作り方や考え方は大きく異なり、人々の生活と深く関わっていることを考える機会となりました。



第5回は11月21日に四賀地区地域づくりセンターで、地域から見た「いのちと平和」につ

いて考えることを目的に、地域の方々から戦争体験をお聞きしました。午前は元村長の中島学さんから軍隊での戦争体験をお聞きし、午後には中島さんを含めた地域に住む4名の戦争体験者から戦時中の暮らしの様子を伺いました。特に海軍兵として長崎原爆の被災地に救援に入った中島さんのお話は、学生の知らなかった悲惨な原爆の実態を知ることができました。午後のグループワークでは、戦時中、地域に暮らしていた人々がいのちや平和についてどう考えていたかを知ること、地域の人々の平和への願いをどのように後世に伝えていくべきかを考える機会となりました。「食・いのち・平和」という視点から地域を深く知る有意義な活動となりました。



（地域づくり考房「ゆめ」 専門員 大野 整）

無から有を生み出したオンライン大学祭

学生委員長 岩間 英明

新型コロナウイルスの猛威は社会の仕組みや在り方を変えています、大学祭も今年大幅な変更を余儀なくされました。昨年度、台風19号接近により大学祭は急遽中止となり、今年こそはと意気込んでいた本学にとって、このコロナ禍は思いもかけない出来事でした。前期の間、授業もオンラインとなり、大学構内への立ち入りすらできない中で、無観客での大学祭を模索しましたが、それも叶わず、『大学祭中止やむなし』という意見もありました。

しかし、そうした中で、学友会役員諸君の『何としてでも大学祭を開催するんだ!』という固い決意と熱意に動かされる形で、これまで想像すらしたことのない「オンライン大学祭」に取り組むことになったのです。とはいえ、全国的にもこれまで全く前例がないため、役員諸君はハード面のオンラインのシステム構築、ソフト面の見ている人が楽しめる企画立案など、すべてが「0」からのスタートとなりました。まさしく「無」から「有」を生み出す苦しみがありました。それで



も、役員諸君は次々と立ち足る問題を一つずつ解決し、ゼミ、サークル、地域づくり考房『ゆめ』、マツナビなどの協力も得ながら、準備を進めてくれました。

そして迎えた当日。学友会役員諸君の英知と並々ならぬ苦勞の末に開催されたオンライン大学祭は、多くの学友が視聴し、楽しんでくれたのは言うまでもありません。当然、例年の大学祭のような華やかさも賑わいもありませんでしたが、松本大学らしい温かさがインターネットの画面からも



伝わってくる大学祭であったと思います。学友会役員諸君、そして惜しめない協力をしてくれた学生・教職員の皆さん。ありがとうございました。そして、お疲れ様でした。

学長賞受賞おめでとう!

学術・芸術・社会・体育・文化活動等において他の模範となる成績を修める、または社会に貢献した学生や団体について顕彰する「学長賞」を設けています。授賞式は「第54回梓乃森祭」オープニングセレモニーの中で行われました。



第11回(2020年度) 学長賞受賞者

前田 知沙樹 (スポーツ健康学科4年:課外活動)

- ・2019-2020シーズン FISワールドカップ日本代表
- ・2019 FISグランスキー世界選手権・Jr世界選手権8冠 ほか

スキー部に所属し、アルペンスキー競技およびグラススキー競技の日本代表選手としてワールドカップ等に出場。オリンピック出場を目指し、世界を舞台に活躍しています。

中日本道路株式会社から感謝状 情報誌の制作に協力

観光ホスピタリティ学科 教授 益山 代利子

益山ゼミでは、2018年から2年間にわたり中日本高速道路株式会社が発行する情報誌「中央道マガジンCHU-TRIP」の制作に協力してまいりました。この間、松本、諏訪、安曇野、八ヶ岳、木曾、甲府エリアの観光資源の発掘や地域で暮らす人々の取材を行



い、観光学の様々な視点から提言を行ってきました。

なかでも、ゼミ生らによる高速道路の施設で働く人達へのインタビューは新鮮でした。ヘルメットを被り、現場の制服を着用して高速道路の機材を紹介、サービスエリアで行われているプロのトイレ掃除の手法を見習い、大学内のトイレ掃除も体験しました。

松本特集を制作するにあたっては、観光地としての松本の魅力だけでなく、そこに住まう人々にスポットを当てて「まつもとびとに学ぶ8か条」という内容で松本の魅力を紹介しました。松本には二つの国宝があり



ますが、松本城を外国人旅行者に案内するボランティアガイドさんや、旧開智学校のお掃除を毎日している開智小学校の小学生らの話題などは特に興味深い内容でした。

この度、これまでの2年間の取材協力に対して中日本道路株式会社から感謝状を頂戴いたしました。「中央道マガジンCHU-TRIP」の制作はまだまだ道半ば、これからも続きます。

硬式野球部

悲願の1部リーグ昇格!! 秋季2部リーグ総合優勝

硬式野球部 監督 清野 友二

硬式野球部は、9月5日から始まった関甲信学生野球連盟秋季2部リーグ戦にて総合優勝を果たし、2012年秋季リーグ戦以来の1部リーグ昇格が決定しました。これまでも1部昇格を目指し奮闘していましたが、「あと一歩が届かない」というシーズンが続いておりました。それでもその悔しさをバネに選手たちは前を向き続け、ようやく目標であった1部昇格を果たすことができました。

特に今年は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け春季リーグ戦が中止となり、選手たちは野球ができない日々の中で、様々な不安やストレスを抱えて過ごした期間もありました。しかし、そのような状況を乗り越え、秋季リーグ戦に向けてパフォーマンス

スをベストの状態にもってきた選手達を素直に褒めてあげたいと思います。また、これまでの期間、選手及び硬式野球部を支えてくださったご家族、関係者の皆様、誠にありがとうございました。

今回、1部昇格という目標を達成した私達には、次の目標があります。それは、「1部リーグ優勝」です。その目標を達成するのに、どのくらいの努力と時間を要すればいいかは誰にも分かりません。しかし、その目標を達成するための覚悟は私達指導者、選手も含めチーム全員ができております。新しい目標の先にはまだまだ大きな目標もあります。そのためには、まず何をしなくてはならないか、何ができるかを常に考え、目の前のことを一つずつ全力で

取り組む。それが松本大学硬式野球部です。

春からは1部リーグという新しいステージで、これまで以上に厳しい戦いが待っています。これから始まる冬季期間にしっかりと体力・技術の底上げを行い、人間力・精神力を養い、1部リーグ優勝、



関甲新学生野球連盟 秋季2部リーグ戦勝敗表(西地区)

順位	大学名	松本大	高崎経済大	信州大	長野大	山梨大	勝	負
1	松本大		○6-1 ○4-2	○8-0 ○6-1	○21-0 ○24-1	○6-1 ○4-0	8	0
2	高崎経済大	●2-6		○9-0 ○9-0 不戦勝	○18-2 ○18-2	●5-4 ●2-7	5	3
5	信州大	●0-9 ●0-9	●0-9 ●0-9		●0-9 ●0-9	●0-9 ●0-9	0	8
3	長野大	●0-21 ●1-24	●2-10 ●2-18	○9-0 ○9-0 不戦勝		○9-0 ○9-0 不戦勝	4	4
4	山梨大	●1-6 ●0-4	●4-5 ○7-2	○9-0 ○0-0 不戦勝	●0-9 ●0-9		3	5

※新潟大学は不参加

2部リーグ東西優勝決定戦

- 【第一戦】 ○松本大学 14-1 埼玉大学 ●
- 【第二戦】 ●埼玉大学 3-19 松本大学 ○

全日本大学選手権優勝を目指し、励んでまいります。今後とも変わらぬご声援のほどお願いいたします。



男子サッカー部

北信越大学サッカーリーグ1部3位でシーズンを終了

今シーズンは、予期しない新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、北信越大学サッカーリーグは前期が中止となり、後期のみの開催となりました。結果は5勝2敗で8チーム中3位。2位の北陸大学とは勝ち点で並びましたが得失点差で一歩及ばず、2チームに与えられていた全国大会への出場権を勝ち取ることはできませんでした。

県内外から本学でサッカーをしたいと集まった選手たち、特に4年生には、思い切りサッカーをやらせてあげたかったな。しかし、一時は練習すらできない状況だったにもかかわらず、選手たちはモチベーションを維持し、優勝した新潟医療福祉大学に2-0で

勝った試合、また、全国大会の出場権をかけて戦った最終節など、魂のこもった素晴らしい試合を見せてくれました。

苦しく、正直、後悔が残るシーズンとなりましたが、こうした経験は彼らにとって今後

の糧となるでしょう。そして来シーズンは、サッカーのできる、スポーツのある日常が戻ってくれることを願います。

(男子サッカー部 部長兼監督 齊藤 茂)



学生に好評！ 松本駅から松大直行の「列車代行バス」

上高地線で通学する松大生のために、アルピコ交通の特別な配慮により12月1日～25日までの平日、松本駅と松本大学間の直行バスが運行されています。直行バスは、新型コロナウイルス対策として、駅舎と列車内の混雑を抑える効果を生んでいます。午前の松本大学行、午後の松本駅行、それぞれ4便があり、上高地線の定期券か乗車券で誰でも利用できます。

利用した学生からは、「外での待ち時間がなく、車内も暖かくゆったりと乗って快適」、「往復で利用。時間も正確で授業のことを考えても安心」などの声が寄せられています。



日本基礎老化学会で菅谷学長と青木教授が登壇

日本基礎老化学会が「老化の基礎研究が導く健康長寿社会」をテーマに、松本市で初めて市民フォーラムを開催しました。その第二部において、松本歯科大学、信州大学、松本大学からそれぞれ特別講演があり、私の担当では「健康長寿と栄養：話題のケトン体食を考える」をテーマに講演を行いました。

様々な動物で寿命が延びることが示されているカロリー制限の利点を追究し炭水化物制限を強化した、ケトン体食と健康長寿との関係が話題となっています。一方では、世界一の長寿国といわれる日本において、1975年頃の多様性のある日本食が健康長寿に適していることも示唆されています。ケトン体食が極端な炭水化物制限であるのに対して、この頃の日本食



の炭水化物量はエネルギー比で～70%とむしろ現在の日本食(50～60%)より多くなっています。これらのことを考え合わせると、現状ではヒポクラテスの時代から言われているように何事もほどほどが健康長寿にはよさそうですとお話してきました。

同日には菅谷昭学長も講師として「健康寿命延伸の最終目標：「生きがい創出」の都市戦略」をテーマに特別講演を行いました。

(健康科学研究科・健康栄養学科 教授 青木 雄次)

(株)スカイロードより 車椅子を寄贈いただきました

本学内で開催した企業説明会に参加いただいたご縁で、10月9日に株式会社スカイロード(代表取締役 熊谷康晴氏・松本市)様より車椅子を寄贈いただきました。本学の理念である「地域貢献」への深いご理解のもと、教育環境の整備にご支援をいただきましたことに心から感謝申し上げます。寄贈いただいた車椅子は、健康安全センターや実習などで有効に活用させていただきます。

(キャリアセンター 課長 中村 高士)

住吉前学長と山添教授が 「短期大学教育功労者表彰」を受賞

10月23日、文部科学省より通知があり、短期大学教育制度創立70周年を記念した「短期大学教育功労者表彰」を住吉廣行前学長と山添昌彦教授(松商短期大学部商学科長)が受賞しました。

短期大学に長く従事し、その功労が顕著な者及び短期大学教育に特に功績があった者を文部科学大臣が表彰し、その功に報いるとともに、短期大学教育の発展に資することを目的としたものです。

国際シンポジウムへオンライン参加 画面越しでも学ぶ熱意を実感

この度11月20日、高雄医科大学病院グループ(台湾/高雄市)の国際シンポジウムでレクチャーする機会に恵まれました。従来であれば前日から現地入りして備えるところ、今年のコロナ禍を反映してオンラインでの参加となりました。

松本市(行政)と高雄市政府は「健康・福祉・教育分野で交流覚書」を締結しており2015年からの交流実績があったため、冒頭に菅谷

学長(前松本市長)よりご挨拶申しあげました。今年のテーマは、長期療養とがんに関するシンポジウムで、「長期療養における社会的課題の高まり」というタイトルから、日本の高齢化は自分たちのものになっているのかという問いかけをさせていただきました。レクチャー後、一人暮らし高齢者への対応メカニズムのことや、孤独死に対する改善方法についての質問がありました。今回の国際シンポジウム



は大学附属病院であるものの臨床現場にいる方々の学びの場であり、他国から学ぶ熱意を画面越しでも感じることができました。

(観光ホスピタリティ学科 教授 尻無浜 博幸)

第16回吹奏楽の公開クリニックを開催

11月28日、恒例となった公開クリニックを、吹奏楽界の第一線で活躍する演奏家7名の協力を得て開催しました。

今年はコロナ禍とあって、感染防止に十分な対策を取っての開催となりました。定期演奏会や夏のコンクール等多くのイベントが中止され、活動が制限されてきた生徒の皆さんの期待は大きく、一部キャンセルの申出もありましたが、最終的には昨年を上回る、5校から98名が参加し、多

くの団体が近く開催されるコンテストに向け、講師・生徒ともに熱のこもったクリニックが行われました。

参加した生徒からは「短い時間の中で多くのことを学べた。」「来年もぜひ参加したい」等、充実した様子が窺える多くの声が寄せられました。

この公開クリニックが、コンテストでの成果や今後の活動の一助となることを願ってやみません。

(教務課長 赤羽 研太)



1年生を対象に図書館ツアーを実施

9月7日～11日に、1年生を対象に夏休み期間中を利用した図書館ツアーを開催しました。希望者を募ったところ、19名の新入生が参加してくれました。館内



の案内・利用方法から始まり、実際にパソコンを使って図書館のホームページからアクセスできる、データベース等について体験してもらいました。自宅からアクセスできるものもあり、今後の情報収集の参考となったようです。また、楽しみながら図書館のことを知ってもらえるよう「Library

MISSION」と題し、簡単な謎解きゲームにも挑戦してもらいました。初めて顔を合わす参加者が多いなか、協力しながら謎を解いていました。今後も、図書館が学生たちにとってより充実した大学生活の手助けとなるよう努めてまいります。

(松本大学図書館 司書 中西 悠)

2020年度 外部評価委員会を開催

【松本大学】アンケート結果を巡り活発な議論を展開

8月25日、松本大学外部評価委員会を開催しました。委員会は、大学・教育行政・自治体・企業・高校関係者7名から構成されており、本学からは、学長はじめ、副学長、研究科長、各学部長、事務局長に加え、3名の学生が出席しました。当日の会議は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けてオンラインで実施され、『2019年度自己点検・評価報告書』及び各種アンケート調査結果などを巡って熱心に議論が交わされました。会議終了後に執筆をお願いした「評価票」には各委員の率直かつ貴重なご意見が記されており、今後それを活かして活動を進めていくものです。(副学長 等々力 賢治)

【松商短期大学部】今後の教育活動発展に向けた意見交換

松商短期大学部では9月11日に外部評価委員会を開催しました。大学・短大の関係者に加え、高等学校や地域企業の方々5名を外部評価委員として迎え、本学の現況や、入試、広報、教務、就職、学生支援の各活動および卒業生や就職先の企業様からいただいたアンケートの分析結果などを報告し、点検・評価していただきました。委員の方々との意見交換を通し多くの助言をいただくことができ、今後の教育活動に活かしていきたいと考えています。

(松商短期大学部 学部長 浜崎 央)

園児に野球の楽しさ伝える

硬式野球部、女子ソフトボール部は、幼稚園や保育園の子どもたちにボール遊びを通して野球の楽しさを伝え、幼児期からの運動習慣の推進を目的としている「遊ボール松本プロジェクト」に協力しています。10月20日、本学が主担当として、新村保育園の年長園児を対象に指導しました。プラスチック

バットを使っただるま落としやシャトル投げ、的当てゲームなど子供たちが親しみやすい内容に工夫し、みんな元気いっぱい楽しんでくれていました。



他にも、次のような出来事がありました。

- 2020年8月、健康栄養学科の石原三妃准教授に日本フードスペシャリスト協会より名誉フードスペシャリストの称号が授与され、9月16日の人間健康学部教授会にて表彰状が手渡されました。
- 健康栄養学科の浅野助手と健康栄養学科卒業生および健康科学研究科修士の論文が国際科学誌「FEBS Open Bio」に掲載されました。
- 11月24日、本学で教育学部3年生を対象に就職支援ガイダンスを行いました。セイコーエプソン株式会社人事部の原和弘氏を講師にお迎えし、企業の視点からみたその時代に求められる人物像についてお話いただきました。

新型コロナウイルスの影響は留まるどころか、いまだに我々を脅威の中に踏みとどまらせている。我々にとって経験のないほどのパンデミックな状況は、様々な分野で「今まで当たり前に出ていたこと」を「してはいけないこと」に変えてしまっている。

私は数年前から、パラリンピック競技にトレーナーの立場として関わってきている。パラスポーツ業界も、世界選手権大会の延期、国内合宿の中止、練習場所の閉鎖など様々な問題に直面し、選手や関係者は頭を抱えている。

2020年の夏が始まる頃、感染者数が少ない地域を選択し、国内合宿を開催することになった。しかしいざ参加選手を募集して

みると、「職場の渡航許可がおりなかった」「家族に高齢者がいるため、感染リスクを考えると参加できない」「新型コロナウイルスの影響で出勤日数が減り、渡航費用の捻出が難しい」などの理由が挙がり、思っている以上に参加率は低く、合宿開催自体を見送る形となった。

選手はやらないのではなく、やれないのだ。そんな状況を目の当たりにし「何か出来ることはないか?」と考えてみた。そんな時にヒントをくれたのは、前期に実施していた大学でのオンライン授業であった。オンラインを使用すれば全国に散らばっている選手たちに何か出来るのではないか?

週1回で始めた“オンライントレーニング

指導”は、少しずつ参加人数が増え、通常の合宿の参加人数を上回るほどになっていった。毎回の合宿参加は日程や金銭面などの理由から、参加したくてもできないこともあるけれど、オンラインであれば、参加することができる。やっぱりそうだ。選手はやらないのではなく、出来なかったんだ。そう痛感した。

苦肉の策で開始したオンライントレーニング指導は、コロナウイルス流行前に直面していた問題を解決してくれた。「出来ないことから学ぶこと」その小さな積み重ねはきつときつと、新型コロナウイルスの影響が無くなる頃には、大きな財産となるに違いない。

保護者の皆さまへ

松本大学後援会開催報告

5月30日に予定していた2020年度の松本大学後援会総会は、新型コロナウイルス感染症対策のため集会形式の会議は行わず、書面により賛否をうかがう形式とし下記に記載の議案についてご審議いただきました。おかげさまで、異議なく承認をいただくことができました。誠にありがとうございました。

- 第1号議案 2019年度会務報告
- 第2号議案 2019年度決算(案)及び会計監査報告
- 第3号議案 2020年度予算(案)
- 第4号議案 2020年度後援会役員選出

上記4号議案2020年度後援会役員選出につきましては、感染症の影響で選出が大幅に遅れておりましたが、7月中旬ようやく決定しましたので、紙面をお借りしてご紹介いたします。

【2020年度 松本大学後援会役員】

会長:前田 陽子(人間健康学部)、副会長:相澤 宏樹(教育学部)・泉 隆江(総合経営学部)・柳澤 意久男(総合経営学部)、理事:青木 勤(人間健康学部)・大嶋 京子(人間健康学部)・大塚 友宏(総合経営学部)・木下 秀男(人間健康学部)・小出 真紀(松商短期大学部)・小坂 克博(総合経営学部)・小山 智行(教育学部)・田中 由紀(松商短期大学部)・仁科 真由美(松商短期大学部)・沼田 美千代(人間健康学部)・藤田 徹(総合経営学部)・二木 浩司(教育学部)・宮尾 穂(人間健康学部)・輪湖 稔(人間健康学部)・大池 智美(松商短期大学部)・川嶋 里美(総合経営学部)・原田 久史(教育学部)

編集後記

2020年の始まりには考えもしなかった「withコロナ」という新しい言葉。新型コロナウイルスと共存する生活は、なかなか気持ちが悪く前向きになりませんが、だからと言って嘆いてばかりでも何も変わりません。共存が日常となった今でしかできないことを見つれたり、新しい価値を生み出したりしていくことが、この先の未来を少しずつ明るくしてくれるように思います。

“There is always light behind the clouds.” (Louisa May Alcott)

今はどんよりとした曇り空のように不安な気持ちに覆われているかもしれませんが、決して空から太陽がなくなったわけではありません。「雲の向こうは、いつも青空」この不安もいつかは晴れると信じて2021年を迎えましょう。(記・入試広報室長 坂内 浩三)

新しく4本の動画コンテンツを追加しました

動画で体験してください

WEBキャンパス
University Guidance On The WEB ガイダンス



www.matsumoto-u.ac.jp/video



学科説明



学生生活



体験授業



〒390-1295 長野県松本市新村2095-1
TEL 0263-48-7200 FAX 0263-48-7290
www.matsumoto-u.ac.jp

